



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成27年7月17日（金）

Vol. 307

お蔭様で20周年

～ ありがとうございます ～

秋元 秀夫

去る7月10日アカデミアパークにおきまして、鈴木市長、三村日商会頭、石井県連会長、浜田代議士を始めとして、250名を超える多くの方々のご参加を頂き、創立20周年記念にふさわしい格調高い式典とさせて頂き、懇親会も川名県議による乾杯、石井県議の中締めを頂きながら、和気藹々のにぎやかな謝恩の宴を開かせて頂く事が出来ました。改めて会員の皆様方のご理解あるご協力に深く感謝を申し上げます。

改めて20年前を振り返ってみますと、5商工会を合併し、会議所になる道程は今でも語り継がれる様に「いつになったら実現するのか」と思われるような会議が続き、私の記憶では一旦舞台を「君津経営者懇話会～会長榎本直：会員凡そ300名～」に移してこの会に負託されてようやく合意を得られたと言う異例な舞台裏がありました。後年色部会頭が病気で引退され、後任を私が引き継ぐことになり、真っ先に読んだものは平成9年策定された「基本計画」でありました。この「基本計画」は、人口問題をのぞいたら、今日を良く予測された素晴らしい計画書であります。計画書の11頁に「元来、企業は排他的な競争原理の中で独自の自主性を持つと共に、単独では実現不可能な目的のために共同行為を展開する協調性をもたなければならない。商工会議所の役割は経済発展を促進する一般的な状況を醸成する事によって、間接的に利潤活大をもたらす共同行為を行うことにある」と書かれております。

古い諺に「隣に蔵が建てば腹が立つ」と言われます様に、特に中小零細企業にはそのくらい排他的な競争心が無ければ生き残れない、昔も今も変わらない商人根性かも知れません。5つの商工会が中々合併出来なかったのは、地域間の排他的思いが強かったから？とも思われます。

私は会頭就任以来、この文言を基に「互いに分かち合い、助け合って共に生き残る」を提唱し、行動して参りました。

この基本計画の予測に「東京湾横断道路開通後は100年間で君津市の人口は50万都市に成熟し、先進工業地帯の特性を活かして進出企業は2000社を超えるであろうと预言する反面に巨大パワーセンターとコンビニとの2大勢力は半径100k圏の集客力と半径500mのコンビニによって淘汰され、生き残れる企業は少なく大型店舗とコンビニに席卷されるので、商工会議所は会員の大多数が中小企業であるからその防波堤とならなければならない」と警告されており、観光は首都圏の「故郷喪失時代」を迎えるので君津の森・湖・農業・水を資源とした故郷を提供できる地として注目を浴びるであろう。又アクアライン開通後には湾口道路（橋）の必要性、意義は極めて大きい…私も南房総の近い将来を考えると全く同感であります。不安な予測できない時代に遭遇したら「本を読め」「歴史に教われ」と言われます。

現代人は本を読まず、歴史は省りみず、コンピューターの過去のデータや他の先例に頼りすぎるから個性、独自の発想が生まれない。コンピューターはリーマンショックでもアベノミクスの予測は出なかったが「浜田宏一や山本幸三等古くはローマクラブの提案」などはその著書の中では書かれているからであります。会議所の「基本計画書」を座右の銘としておすすめしたいが、多くは火災によって焼失されて見当たりません。改めて今日の会議所を築いてくれた先輩達に敬意を表し、20年間のあまり知られざる面を書かせて頂きました。ありがとうございました。



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成27年7月25日(土)

Vol. 308

今だから言える 東京湾横断道路の裏話

秋元 秀夫

先日20周年記念の石井県連会長のご挨拶に「あの難しい東京湾横断道は（今生きてる人では）秋元さんと私が作ったようなものです」と少し誇張された祝辞を頂きました。このような挨拶は、すでにアクアライン関係の行事の中では何回か言ってお下さっておりますが…

なにしろすでに50年前の話ですから、私の資料は土蔵の奥深く内蔵され、検索しても裏話ですから全く出て来ませんので、裏話らしく極めて曖昧に書いてみました。

東京湾横断堤の構想はすでに戦後の昭和25年に松永安左衛門に提案され、それから20年後の昭和45年頃から中期経済政策の中で、民間活用によって検討が始まったが、その後の48年のオイルショックで頓挫しましたが、浜田幸一氏等議員が圧力をかけて53年は事業化を図ると位置づけられました。

裏話とは…沼田知事を中心とした千葉県側は大賛成でありましたが、長洲革新知事を抱える神奈川県側は全く反対でありました。長洲知事の方針は、教育、福祉が政治の中心で、経済、産業、インフラについては全く無関心状態でしたから、新産業として生まれた電子産業等はほとんど山梨へ移転、広大な三菱ドックも閉鎖、インフラは東西隣接地への車の移動は一端県南まで下って、再北上しないと到達できないと言う大渋滞と混乱振りであったので、横断道が千葉へかかれば貿易量日本一等

の神奈川県が存在価値、利益・資産価値等はすべて千葉県側へと流出してしまうだろうとの神奈川県側には危惧が大でありました。

政治的交渉ではこの合意は極めて困難だと判断されて、千葉県経済同友会と神奈川県経済同友会との経済界に交渉が委ねられたのであります。ちょうど私は転業間もない、悪戦苦闘の中の田舎の一商人でありましたが、当時千葉県のキングメーカーと恐れられた千葉日報土屋秀雄社長に目を掛けられ、土屋氏の推薦・保証でまだ県下で30名位しかいなかった県経済同友会の会員となっていました。

当時会員は君津では、嶺製鐵所長さんと私2人だけ。木更津市は中央産業の山口さん位でしたので、神奈川県との交渉は土屋秀雄代表幹事に地元代表に山口さんと私と事務局長は千葉銀行石井俊昭氏となり、横浜山下公園シルクホテルでの会議が何年か続き、相手は日本を代表する企業の方ばかりでしたが、土屋代表の説得力は驚異的なもので、神奈川経済同友会代表達を納得させ、経済界での合意ができ、東京湾横断道は出発点に立つことが出来たのです。

一方、民間交流も木更津に促進同盟ができ、いち早く川崎市との交流が始まり、フェリーに乗って展示会などが進められました。川崎市の実力者寺尾巖氏は私と同年のせいもあってか、公私とも絶大な協力をして下さりました。後に小泉親子を育てた横須賀の巨頭小沢一彦氏とも出会い、今だ親交が続いており、今後も頼れる有力な人脈であります。

東京湾横断道はこの様な神奈川県との合意が出来なければ、成立しなかったのですから改めてすでに故人となった、故千葉日報土屋秀雄氏、故中央産業山口慶次氏に敬意と感謝を表し、東京湾横断道の陽の当たらない裏側での根回しの苦労、功績を披露して故人の労をねぎらいと思って、この記事を書かせて頂きました。



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成27年8月10日（月）

Vol. 309

曾野綾子の「人間の分際」から

秋元 秀夫

曾野綾子は私と同年、美人で才たけて
気の強い若々しい女（ひと）であり、作風
また颯爽とした鮮涼感があります。

発刊を聞いて店頭に行ったらすでに11
万部のベストセラーであります。私も若い
うちはすべて努力、勉強だと信じて、スポ
ーツも勉強も仕事も不眠不休で過ごした
時代があります。60代、努力半分運半分と
変わり、80代になった今は努力30%運70%、
人間には変えられない運があるものだと
思っています。すべて努力すれば願いは叶
うと教えられ、私もそう思って生きた時代
がありましたが、曾野綾子曰く「為せば成
るならどうして多くの日本人が命を賭け
て戦ったあの東亜戦争に負けたのか！
人には生まれながら持った器があります。
運命であります。ですから自分の力で及ば
ない部分は神様に任せてあまり悩み、苦し
まない事です。」だから人は祈る事を覚
えたのであります。また、曾野綾子は「逆
境の無い人生はないものです。人は常に何
処かで最悪の事が起こるかもしれない覚
悟が必要であります。覚悟は自分で決める
べきですから他人や国のせいにしてはな
らないと思うが日本のマスコミは自分達
が選んだ政府の悪口を言うがそれではそ
んな政府を頼らず、自分の事は自分で守れ
とは市民にはなぜ言わないのか、学校も社
会も若者も老人も甘やかさず自分ででき
る範囲の責任を果たす社会を作らなけれ
ば日本人は世界から侮られ続けるでしょ

う。人間にとって苦悩は極めて大切なもの
です。この経験が無いと人間性を失うから
であります。悩みをいかに通り抜けるかは
経験と知恵であります。私は運勢が悪い時
は上手に避ける勇気を持ち、時には正面か
ら立ち向かう勇気の両面が無いと生きて
はいけないと思っています。」と彼女は喝
破致しております。私の人生の最大の財産
であり、誇りは素晴らしい人脈であります。
良く言われることに、人脈とは自分の金儲
けや権力の拡大の手段に使ってはいいな
いと言う鉄則があります。またそうした欲
望を持つ人には、人脈は成り立たないもの
です。私の人脈の長続きのコツ？はあまり
深く相手の心の中まで深入りしないで、少
し距離と時間をとっております。相手に煩
わしく思われない様、さり気ない会話を大
切に、お互いに心の支えと成る様に務めて
おりますから、いつも新鮮でその人の良さ
があります。親子、家族でも同じだと思っ
ています。ここ最近思うことは、現代の経
営者の多くは自分の弱みをさらけ出さな
い、弱みを知られたくないと言う人が多い。
私は転業漁民だったから弱みを真正面か
らさらけ出し、退路を絶って戦ってきたか
ら信頼され、良き多くの人脈が生まれ応援
してくれたと思うからであります。弱みを
さらすと劣等感、悩みが無くなって本来の
戦いが出来るからであります。

曾野綾子の「人間の分際」とは「身の程」
と言う事です。財産でも才能でも自分に与
えられた量や質の限度を知りなさいと言
う事です。人には努力で為し得る限度があ
ります。青年は「大志を抱く」のも良いが
「抱かない」のも賢さなのです。分際を心
得て暮らせば、それはその人にとって最高
の生涯の形だからであります。こんな簡単
な原理さえ見極められず「人並み」や「流
行」を追い求めて死ぬ愚かな者は多分曾野
綾子一人ではないのであります。

「人間の分際 曾野綾子より」



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成27年8月25日(火)

Vol. 310

今 日本の国際収支は？

秋元 秀夫

日本の経済収支は東日本大震災以降、貿易収支等は大きな赤字が続いており、日本の経済の立ち直りが大変心配されておりました所、先日2015年上半期の国際収支…経常収支は東日本大震災前によりやく回復したと報道されました。

①経常収支には、輸出額から輸入額を差し引いたものが貿易収支であります。東日本大震災によって原発が止まり、代替エネルギーの輸入は1日100億円と言われ、更にガス、石油の高騰が拍車をかけて貿易収支は6兆円前後の赤字が続いておりました。今期は石油、天然ガスの下落もあって貿易赤字は4000億円程度と報道され大幅に縮小されました。(参考までに日本の食糧の輸入は凡そ6兆円強であり毎年増大しております。)

②貿易収支とは別に国際収支には輸送、旅行、サービスに伴う収支があります。大震災後日本は海外旅行が縮小しておりますが、外来旅行者は中国等から1千万人を超える訪日旅行者が増加致して居りますので、旅行収支は5273億円の黒字となり、サービス収支全体では8723億円の赤字ではありますが、昨年同期より凡そ6200億円縮小をしております。

③日本は海外に沢山の出資や子会社があり、多くの特許権も持って居ります。これから得られる所得収支(利子、配当、特許料等)は今期は凡そ10.5兆円入って参りました。

④経常収支は、貿易収支、サービス収支、所得収支を合わせますと、今上半期は凡そ8兆2000億円の黒字となります。財務省は今年6月末国債と借入金合計は過去最大1057兆円2235億円となったと発表しました。2015年度末までにあと10兆円位は多くなる可能性は大であります。

こうした巨額の財政赤字を抱える日本はこの経常黒字を維持する事が経済界の責務であり、国際的な信頼を保つ役目があります。これはグローバルな国際競争…国際収支を支えるのは貿易、大企業であります。絶対必要な事は国内産業、ローカルな地域産業を健全でフェアな競争ができる様に育成する事が国際競争に勝つ絶対の条件だと思っています。

「拝啓 石破地方創生大臣様」の返事は帰って来ませんでした。大臣として今は返事を書けない…洩れ受賜っております。なぜ？であります。

地方創生…プレミアム商品券…期限いっぱい暮れまでゆっくりにお使い下さるよう勧めて下さい。一挙に使ったら後日反動が起こる事は確実であります。キリスト大学の八代教授が批判しているように「プレミアム商品券は国による地方商店街の保護政策だ！非効率な産業を保護するのは経済学では資源配分のゆがみだ」と言っておられます。こうした声を見返し、次の政策に励みをつけるためにも是非会員の方は座して待たず、店の表へ出て足を運び、声をかけられ地方創生のこの政策を成功させて下さい。

<追伸>

創立20周年記念事業の一つであります「永年勤続優良従業員表彰」には是非多くの方達をご推薦下さる様お待ちいたしております。



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成27年9月10日（木）

Vol. 311

私説「祭りと花火」

秋元 秀夫

先日ある席上で「祭りと花火」が話題になった折、かなりの知識人と思われた方から「花火や祭りはなぜやるのですか？何かメリットがあるのですか？」と聞かれて、全く意表を突かれた思いでありましたが、花火の始まりや祭りの起源を聞かれるならば、多少の説明も出来ますがあまりにも単純、素直な問いかけに少し戸惑いましたが私は次のように答えました。

「昨年あたりから花火の打ち上げが地方によっては交通、地域の安全性、資金調達等の面から中止したところがいくつかありました。祭りは元来、日本は農耕民族であり、三代遡ればほとんど農家出身であります。農耕民族は春夏秋冬の作物の季節を大切にすると共に特に夏から秋にかけて作物の収穫期には恵みを与えてくれた八百萬神に感謝して祭りを行って参りました。西欧のキリスト教、アラブのイスラム教は一神教であります、日本の神は人が生きるために恩恵を与えてくれた太陽、月、星、風、水、火、土、山川草木、動物、海等の大自然であり、この国を切り拓き、子孫を育て、残してくれた祖先を神と尊び崇めてその数は八百萬神と言われております（日本書紀には八十萬神）

初詣で始まり春夏秋冬の大祭が行われますが、収穫期と盆休みに帰省する夏から秋には祭りは多く行われております。祭りには集まりか

える神々が村々や家がわかりやすい様に、山より高く花火を掲げ、天に感謝すると共に家々の棟より高い幟を村々の入り口に立て、神々を迎え入れ、神魂を移した神輿を笛や太鼓のお囃子にのせて神魂をゆさぶって統御し、鎮守の森や家々には酒肴をしつらえて神々と共に直会をして神々と人が一緒になって感謝の時を過ごすのが日本民族の祭りであります。ですから神道には教義はありません。教義が無いから神官は「事上げせず」と説教もしないのです。神祭を行う仲介者であります。分かりやすく言えば、日本の神の祭りは願い事をするのではなく感謝する祭りなのであります。

日本民族の偉さは、大自然は恩恵も与えてくれるけど時には大災害を与える大自然の神を恐れ敬うと共に、これらの経験を知恵として生かし、群れを作り互いに分かち合い、助け合って生きる群れの絆と思いやりを最も大切なものとして生きて来たことであります。日本建国以来2765年一度も国体は変える事はありませんでした。民族の崇祖天皇家は125代連綿として続いております。デンマーク国王54代、1500年英国王室40代950年、スペイン王家17代520年、タイ9代230年等凡そ20家ありますが世界に類のない民族であります。祭りも花火も民族、村人達の大自然、祖先に対する篤い感謝、尊敬の表れであり村人達の絆の強さ、心意気、仲間意識の象徴であります。東北の祭りに見られる様に祭りには全国から何十万人と言う人が祭りに帰ってきます。これからの時代は自分の心を支える故郷の祭り、旧交を暖める仲間達によって勇氣、自信、希望を取り戻すことが出来るからであります。祭りや花火のメリットは参加する事によって多くの隣人、友人と出逢い、感動する事であります。

あしたからの生き方が変わる日であります…」



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成27年9月25日（金）

Vol. 312

老後の破産 長寿と云う悪夢

秋元 秀夫

NHK スペシャルで放映され、私も釘付けになって見ておりました。

ひとり暮らしの高齢者 600 万人。年収は生活保護水準を下回る人が凡そ 300 万人。このうち生活保護を受けている人は 70 万人。残る人達の中には預貯金などで十分暮らせる人も居るが、その人達を除くと凡そ 200 万人余りのひとり暮らしの高齢者は生活保護を受けず年金だけでギリギリの生活を続けているが、病気になったり、介護が必要となったら生活は破綻してしまう。この社会を NHK の板垣プロデューサーは「老後破産」と云う表現をした。勿論彼が考えた新しい造語であります。

日本の高度成長社会は真面目に働けば報われる社会であった。こうした時代背景の中で作られた年金制度は独居老人が今の様に 600 万人も出現するとは全く想定できなかった。

日本の家族は、この国が始まって以来家族は同居する民族性であり、日本民族の美風だと疑う余地は全くなかった。この頃の三世代同居家族は 60% を越えていた時の制度であります。

祖父母が年金をもらい、留守宅を守り、孫を育て、両親が働ける三世代家族。祖父母の年金だけで生活費はほとんど賄えと云う豊かに繁栄する日本の家族制度は世界の羨望であった。日本古来の家族が共に分ち合い、助け合って栄えた歴史を忘れて自由な個々の幸せが第一とのアメリカ民主主義を錯覚して核家族と云う。家族同居率 10% の社会を選んだために、子を生み育て、日本の支えあって生きる家族制度を基本とした社会保障制度が全く機能を失ってしまったのであります。

助け合って生きる社会を失うことは、予期しない病気や事故に遭遇すれば核家族も老後も忽ち破産となり、家族も地域社会も孤立して、崩壊してしまうのです。

今の年金制度に私達が望む改正は、日本の財政から考えればもう限界であります。年金、医療、介護に係る社会保障費は国民所得額の 30% を超え、国の借金は 1000 兆円を超えて居ります。国はこの財政を立て直す一環として年金額を引き下げ、医療費・介護費用の負担を増やし、社会保障制度の抑制を始めて居ります。現役世代からも「貰いすぎではないか、こうなったのはあなた達の責任ではないか」との批判が多いのも事実であります。

1990 年は 5.1 人で一人の高齢者を、2010 年には 2.6 人となり、2030 年には 1.7 人で一人と云う。現役世代は一人で、一人の高齢者を支えていかなければならない構造となるからであります。どのようにして生き抜けるかは、私の立場で訴え続けて居りますことは、市内に昔の様に小さな産業を生かし残すことが、高齢者の生きる道と密接な繋がりがあります。70、80 歳になっても元気な人の働く場所があり、小さくても自営業者を皆で残すことであります。大型店、チェーン店は便利で安いけれど支払ったお金は市内を循環せず本社へ回収されてしまいます。高齢者の働く場所はありません。市内の小売店から町工場へ、大工さんから洋服屋さん、電器屋さんから植木屋さんへと何度も皆さんの使ったお金が循環するから「まち」が潤い、潤う方から土地資産価値も安定し、年金で不足する生活費を助けて働く場所があり、一緒に働く仲間達がいて、独居孤立の情けなさ、さみしさ、惨めさから抜け出して自分の居場所…生きていて良かった…と言う明日の希望を見つけることであります。

それは病気、ガンと同じです。少子化も年金、介護、医療も同居家族の必要性を早期に気づくことであります。

中小零細自営業がこれからの地域を救う時代であり、役目だと頑張ってください。量販店の時代は日本では終わりが近いと私は思っています。

地方の小売業・産業が必要な時がすぐそばまで来ております。



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成27年10月10日(土)

Vol. 313

世論を視点を変えて見る

秋元 秀夫

今不況打開策、財政改善のために如何に人口を増やすかと全国の市町村は躍起になって居ります。人口増は経済にとって最大エネルギー源だと唱え、誰一人異論をいう人は居りませんでした。標題の様、世論を裏側から「天の邪鬼」に考えたらどうなるかと思って書いてみました。

皆さん、もう一度ウルグアイのムカヒ大統領の演説を思い出してください。「限られた地球の中にあって、人類が地球の自然と調和して生きていかなければ人類はやがて滅亡してしまうでしょう。そして、世界から貧しさや病気をなくして平和でありたいと唱えながらも、自分たちの市や家はもっと豊かになりたいと望んで居りませんか。もし、インド14億人の人達がドイツ8,200万人と同じように車を持ったら、全世界の人が車を持つようになったら地球に人が息する酸素はどれだけ残るでしょうか。」とムカヒ大統領は問いかけました。

全世界の人達およそ70億人～80億人の人が西欧社会のような贅沢な食生活をしたら地球の資源は足りると思いますか。日本人の一日の使用する水はおよそ250ℓ、アフリカではおよそ平均1ℓであります。日本国内で生産される飲料水は180万ℓ、輸入する飲料水は55万ℓであります。地球は「水と緑の惑星」と私は思っております。その地球の水の量はおよそ17億kℓといわれますが、海水が97.5%、淡水は2.5%、人が使える水はわずか0.01%しかないのであります。今、先進国はあげて人

口減に悩み、人を増やせと合唱して居るように思えますが本当にもっと人を増やすべきでしょうか。世界では毎年14,000万人生まれ、6,000万人が亡くなって、毎年8,000万ずつ人が増えて居るのです。日本は今、毎年750万人生まれて1,500万人亡くなって居りますからこのままでは毎年750万人ずつ減っていくことになります。

あえて「天邪鬼」に考えれば高齢化に対して私達は考え違いをして居るのではと思います。65歳以降を高齢者という法定用語？が使われた時は男女平均寿命66歳(およそ50年前)、現在の平均寿命およそ80歳でありますから高齢者の線引きは75歳以上と変えて、退職もまた75歳位まで変えれば現実に合ったバランスとなり、老後不安も、社会保障財政も改善できます。TPPは「安保法制」より大事だと思って居ります。世界耕作面積は6.2億～6.9億haと言われ、食糧の生産量は22億tが限界だと言われています。このまま人口が増えれば餓死か水と食糧戦争であります。戦争の多くは貧しさからであります。日本は今食糧は3,000万t(およそ5兆円)輸入して800万tを食べ残し廃棄しています。食糧生産に要する水は牛肉20t/kg、豚肉6t/kg、小麦2.6t/kg、卵3.2t/kg、紙45t/kg、繊維24t/kgもかかります。日本の自給生産は水、耕地面積からとても一億人は養えないでしょう。砂漠化する中国は世界最大の輸入国となって日本の食糧輸入は脅かされて居ります。

GDPは、日本は3位に落ちて、生産人口が心配されて居りますが一人当たりのGDPは人口1千万人以下の①ルクセンブルク②ノルウェー③カタール④スイス⑤オーストラリア⑥デンマーク⑦スウェーデンが上位であります。

これらの国は極めて老後の安定した社会保障の国だと言われております。(⑩アメリカ⑳日本㉑韓国㉒中国)わが君津市も世論に迎合せず、別の視点で考えてみるとまだまだ君津は…と言えるのではないかと、あえてデータに角度を変えて書いてみました。



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成27年10月25日(日)

Vol. 314

女性会創立20周年 記念式典のあいさつから

秋元 秀夫

皆さん改めまして今日は君津商工会議所女性会創立20周年おめでとうございます。

会場には季節柄公私とも大変お忙しい折と存じますが、鈴木市長さん、浜田靖一先生、佐藤県女連会長さん、吉川元全女連会長さん、そして県議会の川名先生、石井先生を始めと致しまして、県内外から関係の方々、会員皆様がお祝いにご出席を賜り、このように素晴らしい記念式典とさせて頂き、女性会20年間の苦勞が報われたとの思いであり、私共と致しましても誠にありがたく、心より厚く御礼を申し上げる次第であります。

御承知のとおり、ちょうど今から20年前はバブル景気が破れて、今まで経験も無かったデフレ不況という困難な時代でありましたが、幸いにも初代吉田尚子会長さん以来、緒形登美子さん、谷光代さん、永島貴子さん、宮崎たかさん、そして現会長の坂本禮子さん等歴代の会長さん方はそれぞれ豊かな人格、才能を持たれた会長さん方に恵まれ、また会員の皆様方も良くご理解・ご協力の下さり、会議所の目的であります小さいものが集まり、互いに智恵と出逢い、助け合い、分かち合って共に生きて行く精進努力を尽くして下さり、今日の事業内容、会員数共に全国に類例の無い女性会として大きく成長して下さいました。

平成24年の全国商工会議所女性会連合会

会長賞を頂いた事が何よりの証明であります。

私達を取り巻く日本経済はアベノミクスによるグローバルな経済は原発停止によって、1日あたり100億円のエネルギーを輸入するために貿易赤字はまた4200億円の赤字を生んでおりますが、経常収支は8兆2000億円の黒字であり、まずまず一安心であります。私共との関係は深いローカル、中小企業経済はまだまだであり、皆様が実感されておられる通りであります。これからは商工会議所と言う組織を活用して、政治、行政と共に地方創生を身近なものとして実現させなければなりません。しかし基本は経済に直接かかわる私達一人一人の努力であり、夢と希望を次の世代へと継承する役目であります。

先程開会の時、皆さんが声を揃えて謳われた様に、これからも「理想は高く、心豊かに逞しく」そして私が一つ是非加えて頂きたいことは「常に心優しく」です。荒廃する現世の中で、女性だけが持つ感性と誇りを大切にされ、後から続く者達のためにお力を貸していただきたいと存じます。

財政が年金・医療・介護等はまだまだ厳しく、経済界も難しさを増すと存じますが、その経済界の支え、多くの市民に愛され、頼りにされる女性会として、お元気で、健康には充分気を付けられて一層のご活躍をご期待と祈念を致しお祝いの御挨拶とさせて頂きます。

終わりにになりましたが今一度会場のたくさんのお客さま方に重ねて感謝を申し上げ、この後市長共々皆様方を歓迎申し上げますので、今日は君津でごゆっくりお過ごし下さり、またの御出でをお待ち申し上げます。

ありがとうございました。

※女性会創立20周年記念式典は10月8日(木)に実施されました。



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成27年11月10日(火)

Vol. 315

女性の明日を考える

～吉川稲主催 石原慎太郎講演より～

秋元 秀夫

先日、坂本禮子女性会会長の尊敬する友人「吉川稲さん」の集まりに私も誘われて同行した折の、石原慎太郎氏の講演内容です。ご参考になればと書かせて頂きました。

「私は今風に神を感じております。自分だけ良ければ良いと言う考え方を自然と共に人類は生きることを考えるべき時であり、尖閣列島の問題等を絡んでまさに歴史の十字路口に立って今日は皆さんとのお話の中から、これからの日本のあり方を一緒に考えてみたいと存じます。

私も孫7人を持つ日本の男として先ず、天変地異については皆で考えなければいけない時に来ております。かつて40年前に宇宙にブラックホールがある事の大発見をしたホーキング博士が地球の寿命はあと100年くらいで終わるだろうと予言致しております。残る時間は後60年と言う事になりそうであります。また生物のいる星は宇宙にいくつありますかとの問いには200万カ所くらいありますと答えられました。しかし私達人類が住む地球は温暖化によって、このままですと後10年経つと北極海の氷山が溶けて水位は6メートル上昇すると言われ、日本列島は沈没しないけど、東南アジアをはじめとして、低湿地帯は水没するでしょう。また海水が増え、海面が上がれば水蒸気の発生が多くなりますから、大型台風・大豪雨が多く襲来するようになります。かつて15世紀

のバチカン法王は、白人以外はすべて「ケモノ」キリスト教徒以外は人として認めないと唱え、中世期以後は白人が世界を支配してきましたが、日本へ漂着したスペイン船が救助されて江戸文化に接して教育の高さ、町並みの整然とした清潔感に驚嘆して日本の植民地は諦めたともいわれます。江戸文化は武家塾とは別に町民塾が7万カ所もあって英才教育が行われていたからであります。ニュートンより100年早く関孝和は円周率、行列式、概括算法を発見し測量や暦等にも実用化され、更に経済では大阪堂島商人達が「先物買」「手形商法」を世界に先駆けて活用されたのであります。一国とは公けではなく、一人一人で成り立っているのでありますから、教育が如何に大切かであります。

しかし日本人が心すべきことは「独立国家心」が薄い事であります。中国はやがて崩壊するでしょう。中国は中産階級が作れない国だからであります。中産階級が作れないと下から崩壊をするのであります。それは中国の長い歴史が証明する通りであります。これから日本が大切に育てなければならない事は人と違う感性を大事に育てることであります。日本文化が優れている事は自然の四季から受ける情緒感、感性であります。

今危ない事はすべて若者がコンピューターを中心に同じものを学び、同じ答えしか持てないことであります。歴史に教わり、感情が豊かだから他人と異なる発想力、想像力、発信力、突破力が生まれるのです。他人と同じものを学んでいては発言力を持つ人は生まれて来ません。戦後70年アメリカと戦争した事を知らない若者、どっちが勝ったか分からない若者がデモをしている。現実をしっかりと知るには歴史を学ぶことです。

世界の大方の植民地は太平洋戦争によって独立を果たしたのであります。」

(石原慎太郎を囲む100人位の集まりから)



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成27年11月25日(水)

Vol. 316

地方の景気回復は

秋元 秀夫

小糸川秋花火を終えて、この稿を書き始めました。

この秋花火は大変難産でもありましたが、川名実行委員長を中心に皆さんが良く足を運び、努力された甲斐のあるすばらしい大花火となって多くの観衆の大拍手の連続でありました。

また一方16日には坂田、中野、久保商店会に続いて21日には久留里商店会のイルミネーションが点灯され、各商店会共に例年よりもスケールもデザインも素晴らしい景観を見せてくれました。私は毎年この頃には4市の商店街を見物に参りますが君津の様なイルミネーションはどこにも見当たりません。よく祭りや花火、イルミネーションの効果(メリット)を問う方もおられますが、イルミネーションの点灯準備をしていると通りがかりの人達が「うわあ！イルミネーションをつけてくれてありがとう！これで明るい年末を迎えられます！」と声をかけてくれます。

祭りも花火も資金、時間、労力等で大変な苦労、努力が伴いますけれど、その地域の人達がリーダーたちの熱意に共鳴し、段々と数が増えて大きな事業を成し遂げて行く達成感、感動、感謝の思いがその地域の人達に自信、誇り、生きがいを作る大きな原動力となり、世界の人々を驚嘆させた東日本大震災の時の信頼の和につながって行くのだと思います。

これから迎える日本の経済は、多くの人達の願望と異なり、地方の疲弊、人口の減少、社会保障という難問題にはここ1～2年は具体的な政策は見つからないのではと懸念しております。例えば地方創生策＝プレミアム商品券であります。この事は政治や行政にかかわる人達が地方、中小企業の困窮を分かっているからであります。アベノミクスが目指す大企業、高所得者がもうかれれば地方や中小企業へと余剰金がしたり落ちると言うトリクルダウンは尚更ほど遠いと言う事もわかってはいるのです。大企業がトリクルダウンをしないのは長い、長いデフレ不況を乗り越えてきた策は、設備も在庫も正社員も抱えない経営理念が消えないからであります。

前年度大企業の内部保留は凡そ354兆円過去最大の数字であり、2015年度の経常収支は黒字10兆円を超えるだろうと私は思っておりますが、中国経済も成長率7%弱と言われておりますが、実態はもっと大幅に悪いのではとの説もあり、新興国経済の先行き不安が内部保留をさせていると思われます。景気は国内では何と言っても個人消費が柱ですが求人倍率や失業率は極めて良いようですが、40%近くは非正規社員であり、金持ちと言われた高齢者達も年金が縮小、医療介護の負担増による手取り給付金が大幅に減少しており、将来への警戒心がお金を使わせないようです。

こうした難しい時は人の心を明るくすることです。今からまだ間に合います。

イルミネーションは一連10メートル4千円位だそうです。各店1～2本奮発して店頭を飾って下さい。ちょっとした努力で秋花火や商店会のイルミネーションの様に地域や街は変わるものです。

景気、不況は人の心に起こるものですから…



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成27年12月10日(木)

Vol. 317

来る年は心の優しい
豊かさを求める年でありたい

秋元 秀夫

昭和50年代は多世代同居のにぎやかな家族があり、豊かな中流家族であった日本は世界の羨望の的でありました。そして今、核家族が中心となって日本は生活保護163万世帯、高齢者80万世帯、独居73万世帯、医療費は一人当たり65歳未満で年凡そ18万円65歳以上年凡そ75万円となり国の医療費負担は凡そ40兆円、生活保護費もまたおよそ4兆円となって国家財政を揺るがす巨額な負担となり、このままでは今後も減る事は無いと思われま

す。
ダライラマ法王の14世が「私達の矛盾と題して、大きな家に住めるようになったが家族は誰もいなくなった。便利になったけれどいつも時間に追い回されている、高度な教育を受けたけれど物事の分別が無い、知識はたくさん受けたけれど判断ができないのです。それぞれの分野の評論家、専門職、学者は多いけれど、難問題はかえって増えております。病院へも薬も多くなったけれど、段々と気持ちが不健康になっていく様だ。宇宙へ簡単に行けるようになったが、友人や隣人への挨拶や会話は遠のいていく。コンピュータは大量に使われているが、人と人とのつながりはうまく行かない。大量の商品が作られ、売られても長持ちしない消耗品ばかりだ。ファストフードで金と時間を節約しても益々消化力は衰えて、見た目は健康に見えるけれど心は痩せて貧しくひ弱

だ。財産も地位も得たけれど上辺だけの人間になってしまった。外から見れば豊かで幸せそうだが、中身は空っぽ。今はそんな時代だ。」と説いております。

来年は日本だけでなく、世界全体の生活、経済はもっと厳しい年だろうと懸念致して居ります。民主化、近代化が進んで良くなるはずの世界はむしろ逆行して大きな格差社会へと向かっております。その証拠には戦争、紛争が多くなっております。戦争とは格差という貧しさから起こるものであります。汗を流して家族を養う人、コンピュータを駆使し巨大な資本力を持つ一握りの人たちによってその場限りの膨大な利益を追う欲望経済によって、本来「経国済民一國を治め民を救う」経済を歪めてしまっているからであります。なぜと思う時、戦後の貧しさの中で経済的に豊かになればと、私達は死にもの狂いで働いてきました。その忙しさの中で、家族と夕食を囲む団欒、子らと過ごすゆとり(人間の価値)を犠牲にして物の豊かさだけを求めた歪みから生まれた今の経済社会であります。

私の持論であります、かつて中流社会へ再生させるには、地方の産業経済を復活させることであり、これは大変至難な事で不可能に近い事ではありますが、政治、行政にかかわる人達に、地方、中小企業の実態を理解認識してもらう事が先決でありますから、来年は会議所と行政との取り組み方を変えて、政治、行政、産業経済界が一体となって問題点にスピードを持って対処できる組織にしたいと動き始めております。小糸川秋花火は難産でしたが、退路を絶ってやる気になればあのような市民が大歓声を上げて喜んでくれた大花火となりました。この気概、勇気を範と生かされて年末商戦、元気で頑張る良い年をお迎えください。

追伸「これからの日本経済より大切なこと～池上彰参照～」



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成27年12月25日(金)

Vol. 318

年末の御挨拶

秋元 秀夫

今年もあと6日…

皆様にはお忙しい年末を頑張っておられることと存じます。

会議所も創立20周年を迎え、複雑な経済、政治の年でありましたが、無事大過なくと言う表現の通りの年を終わる事が出来ました。青年部の20周年記念式典が3月5日に控えておりますが、諸行事に20周年の冠名をつけてご努力下さり大きな花を添えて下さりました。更には各商店会が共演するような街を明るくしてくれたイルミネーション。大変なご苦勞をされて見事な大輪を咲かせた小糸川花火祭り。地方不況と言われる中で、良きリーダー達が現れ、やる気になれば出来ると言う一つの良き証明をしてくれた1年でありました。改めて御礼を申し上げたいと存じます。

これらの経験を自信と知恵として是非生かしていただきたい。来る年は特に経済、商いについてはどうかと問われるならば明解な解答はしにくい年の様であります。

会議所等の関係団体から、11月20日前後締め切りで新年の挨拶原稿を依頼されましたが、確証ある答えは書けませんでした。

米連邦準備理事会(FRB)のグリーンスパンに代わって新議長になったイエレンは著書『良い政策・悪い政策』の中でグリーンスパンはリーマンブラザーズの住宅ローンを放置し、リーマンショックを犯した事は批判されるが、以後米国が目覚ましい成長を遂げたのも米

国はツキに恵まれ、グリーンスパンも強運であつたからだと書いております。今回の米国の利上げも既に世界の官民合わせた債務は2京4千兆円を超え、気になる事は米国の自動車のサブプライムローンは住宅ローン以上に信用度が低いと言われながらすでに100兆円を超え、いずれは破綻するのではと説く人もあります。世界一の投資家と知られるビルグロス「カジノもいずれ無くなり、ギャンブラーたちも家に帰り、宴会はもう終わりだ」と言った事は何を意味するのでしょうか？

来年日本は地方不況が続くのではと懸念致して居ります。何度もこの通信で書かせてもらった事ですが、年金で余生をゆつたりんびり暮らすゆとりはないと思います。ピケティが言う様に、日本も格差社会となって大衆層の貧困化が進んでいるからであります。経済的な立場から言えば、大型店、コンビニの過剰供給を行政が放置しているからであり、このまま寡占化が進めば市民の暮らしを豊かにすることにはつながらないからであります。狭く資源の無い小さな日本の国はそれぞれの土地の風土、暮らしに根付いた小売業、生産、加工業があつて2代3代世代が同居して家業を守り、家族全員が働き、老いては家族全員が年金をもらえる日本一豊かな福井、富山、石川、岐阜、滋賀北陸5県があります。

地方創生には大企業誘致ではなく、小さくとも自分達で自立でき中流社会を築く事を来年はもっと大切に、政治、行政と業界一体となって進めたいと願っております。

期待された観光案内所の是非が論じられております。官営案内所の様なムードのものではなく「街の商人直売市場」の様な村や町の商人が集まって案内所を囲んだ小さなまちを作して下さい。

それでは1年ありがとうございました。

皆様、元気で良い年をお迎えください。



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年1月12日(火)

Vol. 319

新年の御挨拶 ～賀詞交歓会の要旨から～

秋元 秀夫

皆様新年あけましておめでとうございます。

昨年は創立20周年を迎え、皆様の大変なご協力によって無事大過なく年を送り、新しい年を迎えることができありがとうございました。

今日の賀詞交歓会は各種団体の新年会が重なり心配されましたが、300社余りいつもの年と変わらぬ多くのご参加を頂き、にぎやかに格調高い賀詞交歓会とさせて頂き、主催者一同心より感謝申し上げます。

一挨拶要旨一

上半期の国際収支は貿易赤字も4千億円と大幅に縮小し、観光収支は5千300億円と過去最高の黒字となり、海外投資から得られる所得収支は10兆8千億円を計上、経常収支は上半期だけで8兆6千億円となりましたので、今期はこのまま順調にいけば経常収支15兆円は超える黒字であります。アベノミクスのグローバルな経済は、まずまず大成功と言えると思われます。しかし、安倍首相が言われるグローバルな経済の利益は必ずトリクルダウンして、中小、地方企業を潤し、地方創生に大きく寄与すると明言されましたが、中国経済の不透明、FRBの利上げによって新興国の資金不足となり、景気減速が予測され、世界経済が安定するまで静観する企業が多く、大企業の300兆円を超えと言われる内部保留の財布の紐は固く、中小企業へ利益があふれ落ち、潤す実感は全く見られませんでした。

一中略一

昭和39年の東京オリンピックに成功した日

本は、狭い資源の無い国をこれからどう反映させるかを大企業は小さい者を助け、小さい者は力を合わせ、共に知恵を集め、力を合わせて共に繁栄しようと本店法が昭和48年に生まれ、この法によって日本の経済は世界一と評価され、世界に類例の無い中流家庭社会を作り上げ、世界から羨望されたのであります。冷戦が終わって、勝ったと思ったアメリカは世界一の債務国であり、世界一の債権国はかつての敗戦国の日本でありました。以来アメリカの日本の弱体化を狙う日米経済戦争は激烈を極め、繊維、鉄鋼、自動車、インフラ等ジャパンバッシングによって苦しめられ、更にはプラザ合意によって240円の円は120円に切り上げられ、日本が持つ米国債100兆円は半分を踏み倒され、更に止めを刺す様に小泉竹中内閣に本店法を廃止させ、日本の中小企業は崩壊させられ172万社あった小売業も、87万社に激減して日本の空白の10年、デフレの20年が続いたのであります。高齢化対策、少子化対策、地方創生は補助金では私は解決できないと思って居ります。日本の国は本店法の考えた、今栄えている北陸5県の様に3世代4世代が支え合って家業を継続し、働く場所を守ってきたから病人、高齢者、弱者、出産者が安心して暮らして来れたのであります。今のまま大企業寡占化を放置するならば、大格差社会となり中国、韓国、中東新興国の様に、戦争、テロ、犯罪が多くなるとピケティの「21世紀の資本」の中にも予測されております。そのためにも本年は議会、行政、観光、JA等関係団体とは垣根、境界を外し一体となって地方創生を一刻も早く実現出来る様、理解、協調に一層の努力を致したいと決意致して居ります。苦況の中で、夢と勇気を捨てないから良き知恵が生まれるものであります。追伸…今日(9日)貞元地区の賀詞交歓会に(150名)招かれて参りました。

今年まだ間に合います。商店会が呼び掛けて町内、地区の新年会、節分会を行って下さるようお願い致します。



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年1月25日（月）

Vol. 320

暖かくにぎやかな新春を

秋元 秀夫

光陰矢の如しと言われますが、今日は既
に大寒。我が家の梅のつぼみは大豆位、椿
は親指位となって、ロウ梅は珍しくいつも
の年より枝を伸ばして、光に映えて金色に
輝いております。良いお正月をお過ごし
のことと存じます。

先月のFAX通信の追伸に今年は商店
会が音頭を取って地域の方々と一緒にな
って新年会のお骨折りをして下さいと
お願い致したのは、私は公私含めると
毎年平均忘年会43回、新年会が20回
くらいあります。昨年の忘年会、年初の新年
会共に2次会はほとんどありませんでした。
無駄遣いを進めるわけではありませんが、
このままですとにぎやかであるべきお正
月が寂しく、暗いものになるのではと心配
したからであります。

新年の御挨拶で申し上げました様に、今
年はまだまだ大企業、大型店は栄えても、
地方の中小・自営業が苦戦する年と思われ
るので、年の初め位は景気よく、明るくに
ぎやかにスタートしたいと願ったからで
あります。

いつも口癖に申し上げております様に、
不況、不景気は人の心の中に起こるもので
すから、困難な事があれば人は群れを作っ
て集まり、経験を知恵として生かし合っ
て、共に助け合ってきたから万物の霊長にな
れたのであります。

先日、内外情勢調査会で東大出身の若い
エコノミスト飯田泰之氏とお逢いしてこ
の事をお話ししましたら、飯田先生は「そ
の通りです。若い人たちはインターネット
に答えを求めますが、インターネットでは
新しいアイデアは生まれません。」

会社、行政、地域社会で色々な会合が持
たれておりますが、古老、古参社員、女性
が多く参加したにぎやかな人と人との会
話の中で、新しいアイデアは生まれるもの
です。アイデアとは「下手な鉄砲も数撃て
ば当たる」であります。あきらめることな
く、もう一回、もう一度とあきらめずにや
り続けることです。下手な鉄砲撃ちも一人
ではダメです。仲間が多くなければいけま
せん。日本人の強い事はアイデアを具体化
する能力が非常に高い事です。

君津は「商業的な農業」の立地条件を備
えたところであります。都会の若者たちの
力、大企業の窓際族の技術、人脈、経験を
誘致して生産の高い農業へ移動させ、老若
問わない後継者対策とすべきであります。
人口減少は無い方が良いでしょう、悲観論
だけでは解決できません。不足するから新し
い技術、方法が生まれるのです。日本のロ
ボット技術は世界のトップクラスであり
ます。社長やリーダーになる人は社員と一
緒に昼飯を食い、夜は晩飯を食い、酒を飲
む仲間（必ず女性も入れて）を10人位は
持つべきです。自腹の切れるリーダーでな
ければ仲間は出来ません。経済圏は30分
エリアをしっかりと充実させることです。お
互いに仲間それぞれの能力、特性、技術、
度量等を見極め納得しておけば怖いもの
無しの仕事が出来ます。

不安とは信頼できる友、仲間、家族がい
ないからです。「会う事多ければ良き友と
なり、会う事なければ他人となる」であり
ます。



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年2月10日（水）

Vol. 321

文殊の知恵となれば

～2月上旬会った人達の話から～

秋元 秀夫

昨年末の御挨拶に、年末年始を明るく過ごすために会う機会を多くして下さいとお願い致しましたが、やはりいつもの年より忘年会、新年会は少なくなったようであります。昨年末の多くのエコノミストは16年末には株価は22,000円と予測された方が多く、年初から順調に滑り出すかと思われ、株価は16,000円台で乱高下を繰り返しております。著名なエコノミストは3カ月くらいで落ち着くでしょうと言われておりますが、インターネットでも景気は中々予見できません。景気や株は「温故知新」古きを訪ねて新しきを知ると古くからの教えがある様に、歴史に教わる事が良いと言われております。

2月へ入ってから急に各界の要人と会う機会に恵まれ、4日には海洋研究開発機構センター長木川栄一氏とお会いして「日本の領海は今や世界で4番目の広さとなり「海底資源研究開発センター」の無人探査機は水深10000メートルの能力を持ち、3000メートルから5000メートルの間に、マンガン、レアメタル、メタンハイドレード等の資源を大量に発見しており、将来日本は資源国も夢ではないと、日本にとって明るい話でした。（今夜テレビで放送されておりますので略しますが）…」7日には日本バスケット界の救世主となった元サッカーJリーグ初代チェアマン川淵三郎氏の話聞く機会を得ました。Jリーグは1993年10クラブに絞ってスタートしようとした時、最後2チームのうち、鹿島ア

ントラーズを外すこととなり、代表ら呼んで貴チームは選考過程99.9%選ばれる可能性がなくなったので、了承して欲しいと言ったら、代表者に「0.1%の可能性は何ですか」と聞かれ、当時のサッカー界では絶対できないと思われた「15000人収容できる屋根付きサッカー場」と申し渡して、断念されたと思ったら7日後「承知しました。条件を全部のみます」と返事が来て私は責任を取って鹿島アントラーズを選びました。0.1%の可能性に希望を失わず、市民、企業が力を合わせて若者たちの夢を叶えた鹿島市は若者減少の町から、若者の増加する素晴らしい街へと変わりました。あの時代私が出した条件は、前例から考えても全くあり得ないと思っていました。すべてプロはアマチュア的な組織ではダメで、法人組織としてそれを見事成し遂げた人達がいたのです…と。

その翌日、元航空自衛隊幕僚で実際に長年飛行機に乗っておられた方と食事をしながら、「飛行機は自動車よりは安全性が高いですよ」と聞きました所、民間航空機は安全性が高いが、自衛隊は戦闘機ですから訓練は常に人体、機体の限界へ挑戦しますから危険性は高いです。安全な訓練をしていたらいざという時に自滅してしまいます。昔から日本の軍隊が世界最強だったのは厳しい訓練に耐えて頑張っていたからであります。戦記に残されております様に、厳しい訓練で鬼隊長と言われた部隊は生き残っております。死にたくなかったら厳しい訓練を耐えることです…と。

今日は9日、NHKアナウンサーから神官になった宮田修さん、心楽しい生き方をしたかったら「和を以て貴しとされ、けんか両成敗、夫は夫らしく、妻は妻らしく生きること、命は遠い先祖からの大切な贈り物、孫子、曾孫へと継承する大切な役目を果たすこと、日本民族は分かち合い、助け合って生きることを大切にする素晴らしい民族であります…」御商売に行かせて頂ければと書かせて頂きました。



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年2月25日(木)

Vol. 322

これからの沖縄は？

秋元 秀夫

世界戦史の中で最も激戦地沖縄の日米の攻防戦は亡くなった日本人 122,000 人、米軍兵士戦死者 12,000 人の悲惨な戦いは、終生語り継がれ、沖縄の人々にとっては記憶から消す事の出来ない苛酷な記憶として残る事と思われます。また敵国であったアメリカ人達にとっても、深い傷跡となっており、残っていると思われます。私の常識から考えますと、あれだけ多くの犠牲者を出して攻め取った占領地は返還出来ないのではと思っておりました。

ソ連(ロシア)が終戦時の混乱の中で、満州南樺太、千島列島を不法占拠したとは全く異なるものであります。択捉島ら北方四島だけでも沖縄の2倍超の北方資源豊かな広大な島々であります。1945年戦争が終わって、1951年サンフランシスコ平和条約によって日本は独立致しましたが、沖縄は返されませんでした。米軍基地として残され、それから21年後1972年によりやうく本土復帰をしたのであります。この時、本土内にあった海兵隊の米軍基地等は、普天間等へと多くの基地が沖縄へと移転して、在日米軍基地の74%が沖縄へと集中するようになったのであります。折からの冷戦時代には、極めて重要な戦略地点であった普天間、辺野古撤収移転も長い長い歳月をかけて、誠意と信頼と忍耐によって築かれて良き方向が見えて来た時、民主党との政権交代によって元鳩山首相の「最低県外へ移転」との発言によって長年の努力が水の泡となり、今日の基地問題悪化の原因を作ったのであります？

今回この記事を書いたのは…この基地

問題が極度に悪化すれば、沖縄は日本から分離すると言う民族問題にならないければ良いがと秘かに懸念する人達があるからであります。またそう言う事態にならない様にと沖縄の保守系の人達も願っておられるからであります。

既に龍谷大学松本泰勝先生は石垣島生まれの極めて優秀な方で、早稲田大学政治経済学部を卒業後は外務省へ勤められた経歴の持ち主であります。この松本先生が中心となって会員は琉球民族であることを条件として「琉球民族独立総合研究所」を発足させ、研究所の方針には独立を目的としてすべての軍事基地を撤去すると記されております。私は今度の沖縄知事選で保守出身の政治家で集团的自衛権容認論者の翁長氏が全く反対の立場で知事になった事に選挙に勝つためなら政治理念も変えるのかと不快感を持って居りましたが、翁長知事は基地問題が民族問題となり、情勢によっては独立運動になる危険性を予知して、それは日本にとっても沖縄にとってもプラスにならないと考えて居られたのかと今になって気が付いた思いであります。世界の中でも国民国家を願う争いが多くなっております。まして中国が海洋国家をめざし、強引な海洋進出に対する脅威に対しても沖縄基地問題は、日本にとっては極めて重要な課題であると思われます。これからは、中小地方産業の立場を考えず大企業の利益のみを追う大企業、大型チェーン店の市場利益を寡占化による経済格差、所得生活格差、地域格差、そして74%を占める基地偏重格差の矛盾危険性が政治家や行政の人々はわかっていない。市民が大きい声を出す時であります。そうした事に気付き努力を始めないと一歩間違えればテロ、過激デモ、沖縄分離問題となる危険性に関心を持ち回避する時であると提案したかったのであります。不景気な世相が目につきますが、幸運の神が目の前を通り過ぎて行くのを見逃さないで下さい。

追伸…佐藤優「日本でテロが起こる日」ポールグラーマン「世界経済の勝者と敗者」「2/23 エコノミスト」※石原慎太郎「天才」は面白く良い勉強になります。参照



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年3月10日（木）

Vol. 323

青年部創立20周年記念によせて
（記念祝辞から）

秋元 秀夫

青年部の皆様、創立20周年心から20年間の御苦勞をねぎらい、おめでとうとお祝い申し上げます。

創立された平成7年頃はバブル景気が大きくはじけて、円高、デフレ、不況と言う今まで経験した事の無い極めて困難な時代でありました。初代高橋和彦会長以来、野村友行現会長に至るまで多士済々の歴代会長に恵まれ、代々それぞれの個性、経験を活かされて県内では事業内容、会員数共に最も充実した青年部と評価される成長を遂げて下さった事に厚く感謝と敬意を表し誇りに思っております。特にここ数年は、数々のアイディアに積極的に挑戦して下さいました。不況、不透明な時代には決意、実行への道は中々難しいものであります。中でも「きみコン」等は多くの市民から喜ばれ、今後が大いに期待されております。

先日東大出身の若いエコノミスト飯田康之先生とお会いしました折、先生が言われた事は「アイディアはインターネットからは生まれて来ません。若い男女、女性を交えた古参社員、町や村の古老達が集まるにぎやかな会話の中からアイディアは生まれるものです。日本人はこうしたアイディアを具現化する能力、技術力が非常に高い民族であります。アイディアを実現させるコツは下手な鉄砲も数撃ちや当るであります。あきらめてはダメです。もう一回、もう一回とあきらめず続けることです。下

手な鉄砲撃ちも一人ではダメです。多くの仲間が必要です。ノーベル賞受賞学者たちの事例も良き仲間、良きチームがあきらめず信念を持って続けられたから成功したのであります」…と。

これからいよいよ少子高齢、格差社会へと突入します。しかし悲観論、他力本願では解決できません。マスコミが華麗なる変身を遂げたと言われる木更津の鈴木会頭が日商の月刊誌「石垣」に「木更津は50年かけて郊外開発が進み、街中は空洞化してしまった。これからは50年かかっても良いから元の町に戻したい」と書かれております。鈴木会頭が戻したい凡そ50年前の木更津の人口7万3千人、君津7万人でありました。

多くの人達は人口が多くなれば繁栄すると言われます、今木更津は凡そ13万人、君津は凡そ9万人弱となって各地域の中心商店街は空洞化し、シャッターを降ろしております。君津市の将来目標人口は9万人を掲げております。人にも町にも適正許容力があると思います。私は君津のこれまでの歴史的、地政学的な経過や財政規模、サービス水準を考えた時、将来の君津市人口は7万～8万人位かと思っております。

温故知新、歴史に教えられることは「窮すれば通ず」であります。終戦後の日本の人口は7500万人でありました。不足、不便、貧乏だったから私達の先輩達は新しい技術を今までとは違う方法を考え、一次産業から見事に脱皮してきたのであります。人の幸せは、決してお金だけでは得られません。

会議所は良き仲間、先輩が多くおられます。良き友を多く持つことが会社を育て、人を育てるコツであります。地図を開いて見て下さい。圏央道が貫通すれば千葉県の副都心となりうる位置にあります。次の世代を託する青年部の皆様の郷土愛に燃え、何時までも若々しく健康で決断力あるご活躍をご期待申し上げ、御祝の御挨拶とさせていただきます。



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年3月25日(金)

Vol. 324

初春の南房総を一回りして見たもの
～報告 3/21(月)～

秋元 秀夫

彼岸の日曜日は雨でしたので翌日、圏央道鶴舞インターから大多喜七曲り坂を下って先ず大原へ向かいました。

久しぶりに通るロードサイドの十万石のドライブインはドアが閉まり暗かった。先々週あたりテレビが大原漁港の魚料理店を大々的に放映していたので、探したが見当たらず。辺りに聞く人も無く、もう一回りして諦めて提灯屋藤江本家へ寄って家紋入りの盆提灯を2張り注文する。藤江本家は今から凡そ30年前、私が坂田の自治会長をした3年間で30数回の放火があり「夜廻り」する役員たちの名入提灯を作ってからで、今は息子が後を継いで居る。家業を守って来たら今では提灯を作るところも無くなってしまいましたと「油乾し」の祭り提灯が店内にいっぱいでした。

私が海から陸へ転業する時、「商いには必ず不況があるがその時は迷わず本業に徹して勉強努力すれば生き残れる」と教えてくれた人を思い出しておりました。大原を出て御宿の商店街をゆっくり走り抜けて、部原で左折して川津港へ海沿いの細い道を走ると官軍塚を過ぎる辺りから直角に数十メートル以上切り立った絶壁に太平洋からの巨浪がぶつかり、白龍が天に駆け上がる様な波しぶきは船首に立って荒波を潜り抜ける壮観がありました。川津港を左下に見て更に崖に沿って曲りくねった細い道を抜けると、目の前に広々とした勝浦港が広がっていました。勝浦は港も市場もまちも人も自信に満ちた風格があり、人の動きが違いました。私の少し友人の経験才覚を持った猿田市長を勝浦市は良き時良き人を得たの

ではという思いがあります。

昼食は久しぶりに鴨川笹元でと車を降りると何処で見ていたのかおかみさんが飛び出してきて「5月に窯出しするから見て下さい」と。この店は加藤登紀子、大串大慈、杉山春信らよく集まり、主人は絵を画き、奥さんは焼き物を作る。30年来彼女の名作は私が収蔵しております。三芳村正林寺は片手で礼拝して「三芳土のめぐみ館」へ着くと青物は既に売り切れて、亡き妻にキンセンカを買い、握りこぶし大2ヶ入り千円の筍を2袋土産に買う。三芳から平群の山合いを通過して岩井に出て勝山の漁港通り商店街をゆっくり抜けてお目当ての「道の駅保田小」へ着いたのは3時頃でしたが、広い駐車場は満車でしたがうまく潜り込めた入口に近い白い建物は「市場」どうやら元体育館らしいが、「道の駅」にしてはおしゃれなセンスの良いレイアウト。高級スーパー並みでした。しかしよく見ると台座は体操の跳び箱、小さな椅子、ランドセル、学帽等様々な学校用具が巧みに取り込んであり、見つけるたびにニコッと笑いがこぼれました。校舎は食べ物エリアでしたが良くわかりませんでした。金谷の「岬の茶屋」はぼろ小屋が白い洋風な建物に変わりましたが、小さな店はいっぱいでした。夕食は君津の魚料理の店に入ると親父さんが「私も料理仲間夫婦で保田小へ行ってきました。行く途中の話題はたかが道の駅の料理だから安くても大したもの食わせないだろうと皆先入観を持っていましたが、食べ始めたら皆表情が変わって、こりゃうまい！おいしい！！あら凄いわ！と大喜びでした」と、道の駅、直売所がたくさんでき、新鮮な海産物や野菜が大好評です。今回はその周辺に食べ物屋が隣接し、大型バスの駐車場も増設されていました。御宿7200人、勝浦19000人、勝山8000人の商店街は店が明るく開かれ、生き生きとした気力を感じました。小さな町もいいもんだなあと妙な気持でした。

追伸：2日程前、町の料理店でイギリス人2人の客と出逢い、ブローケンイングリッシュで話したら「食なび」を見て来たがメニューが全く分からない…と言われました。次は一工夫を……。



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年4月10日（日）

Vol.325

堕ちたヒーロー清原とダルクとは

秋元 秀夫

3月上旬新聞テレビはかつて野球界のヒーローだった清原のやつれた白髪交じりの髭を生やした映像が毎日の様に流れました。ご存知の様に禁じられた薬物使用容疑による逮捕の姿でありました。競争社会の中で常にトップを走る喜びと誇りがあり、陰には常に栄光を支える厳しいトレーニングと節制に耐える精神力が必要です。私もかつて陸上競技を10年ほど続けましたが、この辛い練習はいつ終わるのだろうか、気楽な普通の青年になりたいと思う心がありました。幸いにも私はこの陸上競技を通して「俺が辛い時、相手はもっと辛いはずだ。もうひと頑張りすれば勝てる！」という精神力を持っていた事、他を振り切ってゴールへ飛び込む感動…それが後日、京葉工業地帯造成によって海から陸へと転業して悪戦苦闘した時、いつも心の支えとなって今でも続いております。それに引きかえヒーロー清原は私達とは桁違いの栄光を守り続ける身体・技術・精神力を支える心と人がいなかったのか？単なる天才であったのだろうか？と疑問が残ります。人は持てる能力に全力を注いで戦う時、必ず良き仲間、生涯の友は生まれるものであり、また異性からも好かれるものだと言います。現役を終わり、一人の社会人として生き、老後を迎えた時、何人の友がいるかが人間の本当の価値であり、幸福感があります。心を託す友がいない孤独感が「切れる老人 3/19 東洋経済」を生み新しい社会問題となり始めております。清原氏のニュースによく「ダルク」

と言う名称が出て参りますが、正確には「ダルクリハビリテーションセンター」であります。創設者とは30年程前に出会い、薬物中毒の危険性を県下に講演して歩いておりました。それから20年ほど前に母子家庭の母親が突然我が家を訪れ「実は息子が明日刑務所から出て参ります。息子は薬物中毒でその売人も致しておりました。今後どうしたらよいか助けて頂きたい」と私が今まで経験の無い相談でありましたが、私はダルクを思い出しすぐ連絡すると「出所したらシャバの風に当てずまっすぐここへ連れて来なさい」と言われ、嫌がる息子を説得して連れて行き、彼が快く引き受けてくれました…ところが問題は沖縄ダルクへ送る飛行機代等3万円、毎月の費用18万円と言われ母親は沈黙してしまいました。私は即座に「費用一切私が持ちます」と答えて3年余り無事まともな青年として帰って来てくれました。毎月盆暮れに一升瓶を下げて照れくさそうにやって参ります。最初女房はなぜあなたが18万円もの大金を出さなくてはならないの？と言いましたが、二度とは言いませんでした。お互い一人の孤独な青年が助けられるならば…

富士食品創業以来、多くの人に助けられ今日まで来た私たち夫婦の受けた恩はいつか誰かに返していかなければと思っていたからであります。これがきっかけとなり、何時か通称「秋元年金」と言われ、今は金額も倍以上となって今日まで続いております。多く子供達の憧れであった清原氏が立派に再起されていく姿を子供達に見せてくれる日を願っております。ダルク(当時)は特別な医療でも宗教でもなく、薬害者同士が大自然の中でお互いに健全に生きる道を探し、話し合い、励まし合って共に健全な心と身体を取り戻していく素晴らしい人達の集まりでした。あまり表面化しておりませんが、潜在する薬害者が君津は家庭の主婦の中まで多く入り込んでいると聞いております。お役に立つことがあったらご相談下さい。



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年4月26日(火)

Vol.3 26

豊かな田舎を目指そう
人口の流れを無理に変える事は出来ない

秋元 秀夫

今、議会や行政は大型店や人を誘致して人口を増やせば、税収が上がり市は豊かになり市民は幸せになれる…と全国が共通して提唱し現に全国で見られる策は、住宅、家賃、子育て(保育園)、リホーム、就業支援、さては生活費支援までと過剰な補助金、施策によって移住を促進しておりますが、地元民にも移住者にとっても良い結果は生まれて居りません。外部からの移住は中々無理だと思っておりますが、外部から移住にかかる余裕があるならば、地元企業の健全育成、地元の若者達を定着させる策に力を注ぐべきであります。

特に君津市と北九州市は製鐵所を基幹産業とする町でありますから産業構造の変化、生産現場の新しい技術による合理的な機械化によって今後も人口の流出は続くと思われまゝす。グローバルな戦いに生き残る方策として当然であります。繰り返しになりますが、人口減少を恐れて短絡的な成果を求めて近隣都市で誘致合戦を行い人の奪い合いは意味の無い事であります。安倍内閣は石破地方創生大臣をおき「一億総活躍社会、他人や行政に依存するのではなく市民一人一人が働き、富を生み出す豊かな社会を作る」と唱えております。今私達日本の国の財政はこれ以上の公的債務、

インフラ維持、更新、社会保障費の支出は限界であることは国民すべてが認めております。年金は大幅に縮小され、介護保険等受益者負担も増加致して居りますので、今後は間違えなく「一億総働かざるを得ない社会」となります。

私は石破大臣に「高齢者達の働く場所を残して下さい」と訴えましたが返事は大臣としては致しかねますと浜田先生を通じての伝言でありました。

ピケティが「21世紀の資本」に資本主義はこのまま進めば大格差時代を生むと警告しておりますが、議会や行政に係る方達はこのまま大型店の寡占化を傍観放置するならば「政治・行政では制御できない巨大化してしまう危険性」を会員の皆様からも声を大きくして訴えて頂きたいと存じます。すべての者をむしり取るような大型店商法は日本の国にあってはならないと思っています。経済とは経世財民…国を治め民を救う事であります。「一億総活躍社会」と言う社会は大きく成功した者達は小さな弱い者達を助け、共存共栄して日本の国民生活を守り、繁栄させていくことが目的でありますから、中小零細、自営業、生業とするもの達すべてが活躍できる社会でなければなりません。1999~2000年にかけて限界集落説が発表され大山鳴動させましたが、あれから10年消滅すると言われた集落の内98%は健全として残っており、新しい集落はその10倍も増加しております。行政は財政が厳しいからと新規事業に逡巡しておりますが、先見性を持って次の時代への必要な施策投資を怠ってはならないと思います。これからは人生二毛作の時代です。老いてはおられません。元気で働いて下さい。

~記「藤波匠、人口減が地方を強くする」
~参照しました。



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年5月10日（火）

Vol.327

地方創生に策はないのか

沖縄の共同店JAの直売所

秋元 秀夫

今度のゴールデンウィークは休みの長い人は10日余りも続いたと聞くにつけて、私は率直に言えば「休みすぎではないか」と思います。資源のない日本の資源は技術力と良く働く民族であった筈です。私流に言えばかつて日本の繁栄は働きすぎだと欧米から圧力をかけられた時代もありました。今でも中国や欧米にとって日本の技術力と高い生産性は次の時代への期待と脅威であると思われます。

今、その日本を支えてきた中小企業・地方産業は世界の混乱の渦中に巻き込まれて我慢の時を過ごして居ります。政治も行政も「地方創生」を唱えながら具体策が全く無しの感じであります。財源不足、規制緩和を言われますが、中小・地方経済の実態が全く分かっていないのではとの疑問があります。議場や机上で討論・画策するより歩いて実態を先ずよく見聞して頂きたい。

先日JAの斉藤組合長のお話しに袖ヶ浦（ゆりの里）小櫃（味楽圀）貞元（味楽圀）の3ヶ所の直売所で20億円売上げましたときかされたので早速連休中巡回させてもらいました。袖ヶ浦（ゆりの里）は人気の袖ヶ浦公園と隣接し駐車場も共有？するなど公園客との相乗効果が移動する客から感じられました。車No.は地元車が多い様に見受けられました。小櫃（味楽圀）は神奈川方面の車が多く見られたのはゴル

フ客の利用が多い様に思われました。貞元（味楽圀）は地元No.の軽四輪車が多く地元買い物客が多い様でした。各店共通して、君津産の卵は大人気の様子でしたので組合長に聞くと「3ヶ所で1億1千万円位、カラーは200万本も売ります」との返事でした。「君津産」と大きく記されるだけでブランドになると思いました。単独な店ではなく、観光施設等と隣接効果が大であります。

先日テレビで「沖縄のなんでもや共同店」が放映されました。100年程前糸満盛邦氏が自分の店があまりに儲かるので村人に開放し、地元住民みんなが株主となり、みんなの店として食料品、日用雑貨、農業資材仕入販売、茶畑経営、農産物等の販売・共同出荷・輸送、工事、修理、集落の需給何でもまかなう共同店であります。店内には机や椅子も置かれ集落の人達がワイワイガヤガヤ、子供達は共同店広場で遊んでいました。昔は県内にもこうした商店街がありました。この共同店は資本主義市場経済は巨大な大型店、コンビニチェーンによって日本各地の商店街を消滅さることなく人々が安心して人間らしく働ける場所を確保すると共に、貧富格差社会から町や集落を守るためであります。こうした共同店は沖縄以外の国内にも20店余り出来たと伝えられていました。

房総はこれから観光を軸として生き残ろうとして居ります。君津は全国の数少ない好条件の位置にあります。前述の様に一人で生き残るより皆で生き残ることを考えて頂きたい。

私達は「商売のプロ」です。JA直売所、道の駅、観光センター、各種サービス業、飲食店街、商店会直売所が集まるフロアで、「君津なんでもセンター」が出来れば老若男女共に働けるニュータウンシティとなり、人口も定着するでしょう。全国に例のない事を実現させることがこれから生き残れる道だと思います…が。

（5月6日記）



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年5月25日(水)

Vol.3 28

災害時相互応援協定市
長野県 飯田市を訪ねて

秋元 秀夫

数年前から時折「災害相互応援都市飯田市」と言う文字を見ることがあり、昨年地元百寿会の春の旅行先に良い所はないかと尋ねられたので「是非、飯田市、高遠の桜、伊郡谷」等を見て来て下さいとお願いしましたが、余りにも桜の名所が多く素晴らしかったので…と飯田市見学には事欠いたとのお話でした。

今年は、地元の友人達と会議所の前田専務にも同行を願って行って参りました。ご存知の様に長野県は日本列島の中央を南北に2～3千メートル級高い山脈に囲まれた細長い県であり、飯田市はその最南端部の静岡に近い位置にあります。地図上で見ると「東名浜松」あたりから北上すればすぐ行きつくように見えますが、2千メートル以上の山脈が阻むのか観光ルートは中央自動車道を諏訪湖辺りまで北上し、岡谷から伊那へ或いは塩尻か木曽路へと南下する観光コースが多い様です。

私達は当日朝6時30分坂田を出発して予定より早く伊那ICから権兵衛峠(権兵衛トンネル)を越え、最初の目的地「奈良井宿」へ着いたのは11時前でした。奈良井宿は電車や自家用車だと便利ですが観光バスは宿場入口までは500メートルくらい歩いてから「奈良井宿千軒」と言われる長丁場です。今回はバスして宿場の外を歩く事にしました。ふと気が付くと家々に薪が山積みにしてあるのでこの辺りは薪を暖房に使っているのかと眺めていたら、突

然黒い門が開いて「どうぞお立ち寄り下さい」と門の中へ招かれて「自動薪割機」を実演して下さい、やがて玄関が開き「こちらへどうぞ。暖炉もございますから」と奥さんがスリッパを揃えてくれました。もっとびっくりした事は帰宅したらご夫婦名で礼状が届いておりました「日本人のもてなしの心」と言うけれど私達にはここまでできるだろうか?と唖然たる思いで御礼状を出しました。

その日は「寝覚の床」「妻籠宿」などを経て南木曾温泉に一泊、新緑したたる湯舟にひたり銘酒「七笑い」に酔って眠りました。

朝9時30分飯田市役所へ着き後藤武志防災係長の出迎えを受けて防災センターへ案内され、およそ40分間説明を受けました。「親切、明快、信念」のあるお話は全員感銘、納得の顔々でありました。後藤さんはもう一枚の名刺に「(社)危機管理教育研究所上席研究員・危機管理士1級」とあり、熊本の応援から帰ったばかりと言われました。「君津市とはミツバツツジが共に市の花のご縁です。お互いに顔が見える関係づくりを目的に交互に防災訓練には参加しており、鈴木市長さんにも御出で頂いております」と案内された防災センターの施設は私達の目を見張らせる「宇宙センター基地」を思わせる素晴らしいものでありました。まさに百聞一見に如かずであります。飯田市は2千メートル級の山が川へ入り迫っており、山崩れ土砂災害が心配される地形であり、平均雨量1400mm(関東平均1500mm)君津亀山地区は2300mmであります。昭和22年日本三大大火にあった後、地元中学生が自分達の手で町に赤い美しい実を实らせようと植えた「りんご並木」が素晴らしい景観を作り「市の木」とされており、フルーツラインの参考にしたいものです。これを機会に更に「顔が見える関係づくり」友好にお役立てください。(すでに南子安自治会も視察訪問されている)



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年6月10日（金）

Vol. 3 2 9

小糸川遊漁祭り開かれる

秋元 秀夫

6月5日清和柿山田キャンプ場にて今年も小糸川遊漁の主催の祭りが開かれました。生憎小雨の降る日でありましたが、鈴木市長、高橋経済委員長、嶋田観光協会長、斉藤JA会長等を始めとして市内外の親子連れ300人余りの方達が参加されて、雨に濡れて光る若葉の中で良く育った虹鱒500尾余りとうなぎが大量に放流されて始まった遊漁祭りは子供達の大歓声、奇声が小糸川渓谷にこだましてにぎやかな遊漁祭りとなりました。

キャンプ場作本氏を始め地元の方々の大変なご協力の跡が見受けられ、改めてそのご苦勞に感謝と賞讃を送りたいと存じます。

村や町の観光、祭りが成功するコツは町内村内の全員が協力参加し、客を迎えることとあります。今、市内でそれが出来る所と出来ない所に成功不成功の差が生まれている感があります。

このFAX通信を通して川のルネッサンスを何度か訴えて参りましたが、人類は海から発生して川を上り、森に入って原人となったと伝えられる様に、人と水との係り合いは不可欠なものであります。人の文明もパリはセーヌ川、ロンドンはテムス川、ウィーンブタペストはドナウ川、ワシントンはポトマック川、上海は黄浦江、江戸は隅田川、京都は加茂川等、世界の都市は川と共に栄えてきた歴史があります。君

津は小糸川凡そ60km、小櫃川77kmと言う二つの川を持って居り、関東大震災以前までは小糸川は粟倉から河口人見まで凡そ30カ所の舟河岸があつて集配基地があり、この舟運が村々の人と経済を繋いで小糸川は栄えて来たと古老から伝え聞いております。小櫃川も藤平家の屋敷絵に見られる様に、屋敷内から小櫃川中程まで橋がかかっているこの橋は荷舟への棧橋であり、この棧橋を通して遠く加茂大多喜辺りから小櫃川沿いの産物を集めて木更津港、江戸前舟へと木更津、久留里が連携して大きく栄えた時代がありました。日本の舟運はやがて鉄道の発達と共に消えてしまいました。

戦後日本は台風洪水で川が氾濫し、川からの被害が多かったのでコンクリートによって人と川とを隔絶する時代が続いて参りました。しかし隔絶することによって川はコンクリートと雑草木に覆われ、川は汚濁して川も海も魚も住まない時代が続いておりました。

ここ数年前より川のルネッサンス運動が世界各地で始まりました。川、水は人の命を密接な関係のある極めて大切なものであります。今の観光には、川と海は大切な資源、財産であります。

私達の君津は小糸川、小櫃川と言う二つの川を持ち、その美しさ、優しさ、豊かさ、そして縄文時代よりの伝説を持った素晴らしい川であります。それぞれの地域で住む人達が自分達の住む環境を良くするために外から来られる人達が羨ましいと言われるような川をきれいにしようではありませんか…きれいになった堤には実のなる木を植えて下さい。川のフルーツラインが日本に1カ所くらいあってもいいではありませんか…この夏に川下りをしてみて下さい。遊漁祭りの皆さんありがとうございました。



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年6月25日(土)

Vol.330

ガン劇的寛解例とは
(長期生存者に共通する食生活)

秋元 秀夫

昨年11月6日夜、東大病院にて医師向けに開かれたガン講演会は驚きのざわめきに包まれました。

講師は元京都大学大学院医学研究科教授で、現在は京都「からすま和田クリニック」院長の和田洋巳氏でした。ユニークなガン治療を実践している人物であります。「私は今の標準ガン治療の方向は間違っていると思っています。寛解とは治癒をしたかどうかは別として、ガンが憎悪しない状態が続くことです。ガンが宿主の命を奪うことは転移巣が増大して臓器が機能不全に陥るからであります。圧倒的大多数のガン治療医は手術で臓器を取り除き、抗ガン剤、放射線でガンを叩きます。しかし患者は手術後の後遺症、抗ガン剤の副作用で苦しめられ、次々と亡くなっていきます。こうした治療を改めないのは、治療医の怠慢と傲慢であります。ガン細胞は正常細胞の遺伝子に変異したものです。遺伝子変異を起こす原因はタバコなど、日々の生活習慣や食生活が起因であります。食生活による微細環境は5つのファクターがあります。第1はナトリウム(塩分)によってプロトン(乳酸など)が排出され、微細細胞環境が酸性化に変えられ、ガンが増殖しやすくなるので、塩分の少ない食生活が必要であります。第2のブドウ糖は生

きるためには欠かせない成分ですが、必要量を越えるとガン細胞増殖の大きなエネルギーになります。白米の大量摂取は血糖値を上昇させるので、玄米をすすめます。第3はIGF-1ですが、牛乳・乳製品に大量に含まれております。このIGF-1は強力な成長促進物質で細胞分裂を増進する大きな力をもっておりますが、ガン細胞の発生・増殖にも同じ作用を持っており、女性のガン患者には甘い物(ブドウ糖)・乳製品を大量摂取している患者が驚くほど多いのです。第4の脂肪酸は新たに生まれるガン細胞の細胞膜を形成する原料であります。犯人は脂肪酸合成酵素とされておりますが、梅をはじめとする果物類にこの合成酵素を抑制する生理活性物質が多く含まれておりますので、普段の食事の際には果物を多く摂るよう勧めております。第5のNF-KBは細胞周辺の炎症を発生増殖させる物質でこの炎症はガンの発生や増殖に深く関与しております。要するに炎症があるとガンが発生・増殖しやすくなるのです。あくまでも補助的なものですが免疫力をあげるためには、茸類に免疫成分が多く含まれておりますから私は茸類を潰して取っただし汁で玄米を食べることをすすめております。玄米と茸を同時にとれば一石二鳥です。」(文芸春秋・6月号 凡8,000字略)

私も先月MRIで膵臓に4mm位のガンらしきものがあると言われ、いよいよ来たかと全く驚きませんでした。昨日よく調べたら単なる凹凸と言われ、この文を転記しました。むかし貞元に平田先生という評判の名医がおられて、「よく食い、よく飲み、よく動き、いっぱい排泄すれば免疫性を持った病気に強い体になれる」と教えられたことがあります。ストレスを作らず、免疫性を持たれてよい夏をお過ごし下さい。

健全経営の源は『健康』ですから…



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年7月14日(木)

Vol.331

全国商工会議所 観光振興大会京都参加報告

秋元 秀夫

7月11日から13日まで京都で開催された大会に参加して参りました。秋の京都は何度も訪れたことはありますが、夏は初めてでありました。会場は平安神宮に隣接したロームシアター京都で行われましたが、会場を囲む街路樹はもう蟬の声でいっぱいでした。盆地京都はむし暑いという第一印象でありました。

今回は6月7月の総会月で忙殺されておりましたが、分科会「伝統と革新を重ね合わせて～おもてなしの文化を育む～」とエクスカーション「小学校跡地活用ツアー」に是非参加し、時間がとれたらば先日テレビの長時間番組で見た「鴨川を人々が渡る飛び石、夕暮れ若者たちが憩う大きな置石のある風景」を直接見て小糸川、小櫃川へと提案してみたかったからです。大会はまず清水寺森貫主によって「創」が揮毫され、三村会頭からは「この大会は2020年オリンピック、パラリンピック「交流文化 観光の創造～全国からの智慧を活かした地方創生の取り組みを！」をテーマとして昨年外国人観光客は年度ベースでは2000万人とわずか3年間で倍増し、2020年には4000万人と言う意欲的なビジョンがあげられています。観光が極めて大きな役割を果たす時代であります。その推進力となるのは「連携」であります。各地の商工会議所が地域をリードして「住んで良し、訪れて良し」の観光

立国によって各種産業、交流人口、雇用拡大の実現に寄与して頂きたいと挨拶されました。私が選んだ第5分科会「伝統と革新を重ねておもてなしの知恵と文化を育む」でありました。要約しますと京都女子大学西尾久美子教授の基調講演、司会によって京都の老舗の西陣織、料亭、和菓子の若い3人の後継者たちをパネリストとした分科会でありました。私の聞いた結論を申し上げますと京のお茶屋、置屋、舞妓、舞子を始めたとしての京都の伝統文化が何千年来続いてこられたのは①伝統文化の原点を探求し、理解して老舗を守り継続して行く知恵を育てながら時代のニーズには不易流行を基としておもてなしの心を大切に守り育てて来た。こうした歴史を貫いて居るものは目先の金銭にではなく、常に仲間達を大切に、地域社会と共に生きることが基本でありました。分かりやすく言えば置屋、和菓子、織物、料亭の仕組みは置屋で例えるならば師匠、結髪師、化粧師、小間物屋、呉服屋、男衆、御茶屋への出入り組織は変わることなく、また一時的な売上拡大を求めることなく、長期に取引を続けることによって地元へ還元させ、共に百年続く商いを求めてきた。これが京都を支えている哲学だと私は思いました。学校跡地の利用、私の想像した形とは異なりましたが、君津市は学校統廃合、給食センター、偕楽園、観光センター、老人、幼児の施設問題をバラバラに考えるのではなく、それぞれ集合共存活用を考えるべきと思っています。川を「飛び石」で遊び、わたって隣の町内や村へ行く朝夕、川に人が集まる親水感性も必要と考えらからです。

富津市長選に「富津空港」再燃？かも…
夏は朝型観光、夜景観光が良いかもと京都で思いました。良い夏をお過ごし下さい。

追伸：送信が遅くなり申し訳ございませんでした。



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年7月27日(水)

Vol.332

きみつまちづくり創生特別委員会への期待

秋元 秀夫

新しく「きみつまちづくり創生特別委員会」を発足させて頂きました。

従来の活性化委員会があるのに屋上屋を重ねるのではとの気念をお持ちの方もいるかもしれませんがこれからの経済は会議所独自の考え方だけではなく、政治・行政・他の関係団体・市民を協力していく必要があると考えたからであります。時には境を越えて隣接市と協調する必要も出てきたからであります。

例を挙げるならば、一つに富津沖空港論があり、先日お会いした知事の側近の方は空港よりも湾口道路の可能性が大だとも言われて居ります。また別の方は今一度4市合併を再考し急ぐべきだと言う方も居ります。

また人口政策には駅に近い貞元地区が宅地造成に最適だが、浸水地域なので減歩率80%が見込まれるので、三直地区から始めるべきだとの諸説もあります。一方、国際的には国連支援交流協会等が日本での農産物生産農場、農業大学の設置を模索してその拠点として君津市へと訪ねて居られます。こうした多くに問題を取捨選択し、生かしていただきたいと願ったからであります。

しかし商工会議所の在り方としてはあくまでも、法人格会員凡900社・自営業850店の次の生残る策としたいからであります。

先日の京都の観光大会報告で述べさせて

頂いた様に、単なる利益・効率を求めるのではなく、このまちに郷土愛を持って生きる者たちが家族ぐるみで生きて行けるまち作りであってほしいと思って居ります。心配される事は、人口減少を解消すればすべて地方の課題は解決できるという考え方であります。

今回の地方創生政策を通して、過去の失敗の経験を生かさない過剰な活性化事業を唱えて居る自治体・民間企業がありますが、既に人口減少は急速に進んで居り、空店舗・空家・空いた産業団地・商業施設はオーバーストアとなって居り、供給すれば成功する時代ではないとは思って居ります。今求められるものは人口減少で潰れるのではなく、人口が減っても潰れない経営であります。人口が増加しなければ潰れると言う社会構造を修正しないで、全て「人口を増加すれば解決できる」と言う考え方は極めて危険だと私は思っています。

今、君津市は、学校の統廃合の問題、偕楽園の老朽化、学校給食センター、観光センターの運営の問題、道路・川・橋の整備等が累積して居ります。私は出来れば、廃校・偕楽園の問題は一つの机上にまとめて乗せて、学校が一つ廃校になるならばこの施設に老人の集合施設、学校歴史博物館(京都の例)、埋蔵文化財博物館、老人達が持つ技能・芸を子供達へ伝える学びの街教室(京都の例)、体育館も校庭も老若男女・幼児達が共有して使える、スクールタウンを作ってもらえませんか？

合併した旧町村役場の周辺は、かつてはにぎわった町だった、今はすっかりさびれて昔栄えた跡形もない「廃校したらもう村は戻って来ない」と書いておられる評論家がおりました。

— 文芸春秋2016年の論点参照 —



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年8月10日(水)

Vol.333

亀岩の洞窟の裏話～聞きかじり～

秋元 秀夫

今日各テレビ局が千葉県君津市の「亀岩の洞窟・濃溝の滝」を日本一の新名所と放映されていますと友人達から電話を頂きました。

この仕掛け人の1人伊原弘實氏と出逢ったのは平成14年、私が会頭になってから間もなく経ったと思いますが正確に覚えてはおりません。

亀山へは度々招かれることも多く、加藤健吉議員からは亀山での挨拶には必ず提案を一つ入れようとご注文を頂き、その内の一つに観光は神社仏閣に多く集まるので、吊鐘と青銅の観音像を寄付しますと申し上げた記憶があり、観音像は宗教物だからと土地所有者の県から許可が得られず吊鐘は鈴木市長の命名で「幸運の鐘」となり建立されたのであります。伊原氏は既に平成元年の頃から従弟の本吉和彦さんを誘って亀山の亀は昔から長寿幸運を与えてくれると言うから今の木道橋の入り口に大きな岩があったので亀の像を彫ろうと話したが折悪しくバブル崩壊となり頓挫。その時画いたイラストが今の「亀の子せんべい」の刻印として残ったものです。やがて平成13年片倉ダムが完成するに及んで再び同級生を中心に20名余りで「亀友会」が結成され、先ずイメージ作りに愛称を亀山中学校へお願いして小川先生と生徒の糟谷さんの提案された「ハートル(雄)ハータス(雌)」とロゴマーク

は決まったが、亀友会の共同事業としては残念ながら進めることは出来なかったが、伊原さんは「亀運」を信じて「カートンネル(通称:川田トンネル)」へ通ううちにこの洞窟に亀岩があることを発見し、平成18年斉藤敦観光課長と出逢い斉藤課長も大変共鳴され、発見した亀岩が将来何かを与えてくれる予感を感じさせてくれたので、伊原氏は毎日朝昼夕と時間を変えて1日3回カメラで撮り続けたのでさすがの奥さんも「いい加減にしないであなたは狂っている!」と何度も叱られたと聞いております。そして洞窟から朝の光が差し込み、川面から蒸気が立ち上り、左側の壁にハートの半分が画かれ、鏡の様な川面にハートの半分として映る瞬間、一つのハートとなるのですと伊原氏はその秘密を教えてくださいました。

こうしてとった写真を駐車場のトイレいっぱいに張って、洞窟の亀岩の写真を見て信用してもらったのでした。

地元の人々が永年気付き事の無かった神秘的な聖地(ジブリ)の美しさに驚かされた人々が日本中から土日祭日には1万人を超え、今年は7月までバス凡そ200台この後年内凡そ200台のバスの予約、駐車場に追われておりますとの事でした。(君津市では土日祭日のみシャトルバスを運行して頂いております。)

伊原氏の仲間達は「亀の子会8名」で再結成され伊原さんを中心に更に次への展開を始めております。

私も毎年除夜の幸運の鐘をつきに参ります。皆様も是非お出かけください。もう一つのエピソードは、坂田焼き物小屋の会員達が夏休みに親子陶芸教室を聞いて、たくさんの亀を作ってテレビで放映された応援もありました。

伊原氏の奥さんその友人、隣組の方達の日頃の環境整備、接待等の裏方のご苦勞に改めて敬意と感謝を申し上げます。(※濃溝の滝はもう少し下流であります。)

追伸…7日(日)の君津市民ふれあい祭り大変お疲れ様でした。



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年8月25日(木)

Vol.334

小櫃地区ふるさと祭り

秋元 秀夫

8月21日恒例の小櫃ふるさと祭りが開かれました。この祭りは今から42年前、お盆にふるさとへ帰って来られる人々が折角帰ってきたのに、親戚・旧友の人達とも会える機会が無くて寂しいと言う声が聞かれたので柳井範佳氏らが一念発起されて「ふるさと祭り」を始められました。当時は交通の便も悪く、遠くの地へと行かれた人達のことと考えて、祭りは3日間も続けて行われたと聞いております。

当時小櫃は7千人近い人でしたが、小櫃中学校校庭は人・人・人で埋り3千人以上の人が毎日毎晩押しかけて大成功でしたと柳井さんは述懐されておられました。この祭りを支え続けている小櫃商工会は大型店不況によって半減し、商店会の実行委員であった青年部は会員も激減して一昨年この祭りをもって終わりにしたいとの会長挨拶に対して私は壇上から「歴史的にもこの祭りはかつての商店会の祭りから小櫃市民の祭りとして多くの市民から期待されたくさんの支持を頂いております。次の時代へと小さな子供らが継承してくれている伝統芸能を守り、この大観衆の絆の和は自治会を始めとして各種団体、市民の方々に来年も引き続いて小櫃の誇りと力として頂きたい」とお願い申し上げ大拍手を頂きました。

お蔭様で昨年、今年と順調に実行されて参りました。

小櫃の祭りの特徴は老若男女にわたった細かい心配りがなされたプログラムや出店協力があります。数年前からこの田園花火は童画に見られるような親しみがあります。改めて小櫃の方々へ御礼と敬意を表します。来年は更に市内外の方々をお誘いして下さり、よりにぎやかな輪を広げて頂きたいと願っております。

小櫃の広い田園地帯を眺めた時、ここに東南アジアから多くの農民を移住させ、耕作放棄された豊かな農地を再生させ、日本の豊かな土壌、軟水、季節で育てた農産物を彼らの国の人々へ輸出できないものか？青葉高校は日本の農業技術を東南アジアの子供達に教える学校としてもっと活用したいと考えたのは沿線で栄えている駅は高校、大学がある駅と駅前商店街でした。昨日私は毎年恒例になった春秋の季節には必ず小湊鉄道、いすみ鉄道の小さな旅を致して参りました。明日は木更津から富津公園バスで往復し、明後日は久留里線に乗って久留里楽市楽座へ行きます。東京の友人が、久留里の素晴らしい商店街を写して帰ったら「電柱」ばかりの町となっていたとこぼしておりました。地震、災害を考えると電柱の倒壊は交通遮断し停電は生活に大きな被害を与えます。観光を目指す街には電柱とシャッターは禁物だと私は思っております。

「ここには何もないのであります」とポスターで宣伝するいすみ鉄道「トロッコ電車、里山を駆ける」の小湊鉄道、「お化け電車」の銚子電鉄があります。アクアラインと直結できる久留里線を廃線させない為にも一層のこと民間鉄道化してレジャー、スポーツ、農園、宅地化を進めることは他の3社よりずっと有利な位置にあると判断いたしております。豊かな君津は大型店誘致ではなく多くの生産者が生涯かけて働き住む土地にしたいものです。



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年9月12日（月）

Vol.335

地方創生に 地元大・中企業の役目は

秋元 秀夫

前回のFAX通信を読まれた方から久留里線はどうアクアラインへつなげるのですかと聞かれました。私も実は想定の範疇でありましたので曖昧に書いた事が見事に突かれた思いでありました。

アクアライン効果は素晴らしく、濃溝の滝、房州の魅力に大きな成果を与えてくれております。その絶大な利便性を持つアクアラインがこのままですと大渋滞道路になる危惧があります。このまま傍観し、完全な渋滞道路となれば観光客は渋滞道路を嫌う特性がありますので敬遠される恐れがあります。その策として湾岸道路説がありますが2～3年前からアクアライン鉄道説もあります。つい最近の情報ですとアクアライン併設鉄道計画案が既に出来上がったと伝えられ、アクアラインに沿って鉄道専用ラインを作ると言う構想の様であります。具現化しても10年にかかる事となりますが時代の速さは光陰矢のごとしであり、次代の地域の大きなテーマであり、先見性を持つ情報を求めて対応すべきであります。特に私見ですが、対岸川崎との交流を密接にして人脈を持つべきだと提案申し上げます。繰り返しになりますが少子高齢化問題であります。家族を定住させ、この地で夫婦親子が働き、子を育てていくことを切実に地元の政治、行政、市

民が望むならば他から人を集めることよりも市役所を始めとする各種団体、組合、新日鐵を始めとする大中小企業が社員、職員、パート等の採用は市内在住者を最優先して雇用すべきであり、工事物資等の調達もまた市内に本社を置く企業、業者を優先する産業振興条例を作るべきであります。

私の会社は県下に販路を持って居りますが君津市はあまりにもオープンであると感じます。親子三代が役所や地元企業に勤めれば、おのずから三代家族同居、安心して子を産み、子を育てられる環境が作られ、地元を大切に作る郷土愛も大きくなります。地元だけでは人材が？との懸念説もありますが、企業、商店は経済を追うのみでなく、人を育てる役目も忘れてはならない事です。必要なら製鐵大学、建築建設専門学校を作ってくれるなら…この地の学校で学んだ子らは必ずその地で職を求めます。企業は生産性、利益を追求する使命がありますが如何に地域社会に貢献したかがその存在価値を問われる評価であります。地方創生が叫ばれる中で、グローバル化によって巨大な利益を享受する企業がある反面、疲弊消滅して行く小零細業界との格差、不平等の解決について是正、協力を求めた在職15年でありました。それは市場経済主義の企業、大型店優先のあり方を変え、高齢化地方社会では絶対必要な地方小企業、自営業が存続できる本来の地方社会の豊かさの大切さを政治、行政、大型店に関わる人達に気付いてもらいたかったからであります。

苦言を申すなら、今地方社会が少子高齢化、地方経済疲弊は政治、行政が大企業、大型店…税収を重視するあまり企業も社会貢献を軽視し、地方中小零細、自営業と共に発展する社会（まち）づくりを怠ったからであります。



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年9月25日(日)

Vol.336

～FAX通信～
会頭からのメッセージ終わる御礼

秋元 秀夫

平成14年8月25日号から始まって以来、毎月2回14年2カ月340号を10月25日で終わる事になりました。長い間お付き合いを頂きありがたく心より御礼を申し上げます。

今から14年前の書き出しには「すでに基本計画の理念は決定されており、私はその方針に沿って如何に努力、実行するかであります。理念、方針が如何に素晴らしいものであってもその成否は会員の皆様のご理解、ご協力が得られなければ出来ない事であります。その基礎となるものは人づくりであります。良き友、良き仲間を多く作る事があります。私の後半生の人生を育ててくれた一つに、ロータリークラブがあります。人を育てることは教育ではなく、良き友、良き師を得ることによって自らを育てる事です。ですからロータリーには教育という言葉はありません。」と教えられてきました。会議所も全く同じであります。会頭に就任して間もなく前田専務、外山課長から

「FAX通信を使って会頭からのメッセージ情報を会員に送りましょう。私達も協力しますから…」と私の意を介したように後押しをされて始まりました。言うに易しいが実行は難しでありました。先ず時流をしっかりとつかまえて毎朝日経を始め、県紙・地方紙を丹念に目を通しスクラップすると共にノートにメモを取る事から始まり、週・月間紙・日経ビジネス・東洋経済・プレジデント・文春・ニーズウィーク等を購読し、マスコミの時事通信代々支社長、朝日高山修一氏、千葉日報河野良恒氏、新千葉石井氏、かずさ新報石井氏ら毎日居酒屋で過ごす日が多く、キングメーカーと言われた千葉日報土屋秀雄氏には終生可愛がられる幸運がありました。著作者は浜田宏一、丹

羽宇一郎、藤原正彦…高橋洋一、山本幸三、ポールケネディ、ピケティ、ムカヒ、宮本常一等をよく読み、書く事の裏打ちによく読む努力を続けて書庫には文芸タイプで4千冊、文庫本1千冊位メモ帳スクラップ帳はA4・300冊あります。記事はコンピューターの資料を一切使わず、本を主としたのはコンピューターでは答えを即答してくれるが、発想や情緒、感性が無いからでありました。県外の情報は永六輔が師・宮本常一に「人に語り、文を書く時は足で確かめろ！」で教えられた様に私の旅はカーナビを使わない、日程はあるが予約はしない、仲間が多くても自分で運転する。長い旅は9泊10日、7泊、8泊と東京から中国、四国、裏日本、九州1回の行程は3千Kmから4千Km位でした。東北大震災はチャーターして2度現地の最先端まで足を踏み込み大自然の凄さ、到底人力の及ぶところではない事を思い知らされました。反面東北の祭りによってたくましく再起した東北の人々、日本の祭りの素晴らしさ、人心の不思議さにも驚かされました。全国を回遊して知ったことは私達の市は全国で類例の無い恵まれた地域の中にあります。首都圏4千万人、アクアライン、温暖で豊かな海、肥沃な丘陵地帯、湾岸工業地帯であります。私達の市に比べれば全国の地方都市は枯れ野原であります。少子高齢化が心配されておりますが、東欧、北欧の国家は平均500万人位です。千葉県は600万人です。北欧の資源もない荒漠水原の国は世界で最も優れた高福祉社会国家であります。家族が寄り添い助け合って生きる少し貧しかったけれど心豊かな夢と暖かみのある家族社会を取り戻すべき時であります。会議所も同じであります。小さな会員が多い私達の会議所は、小さい者達が力を合わせ、一体となって仲良く助け合い、分かち合って絆を太くして生きることが大切です。日本が栄えてきたのはこの心が強かったからであります。互いに感謝し合う事を忘れずに、暮らしは楽でないけれど心豊かな繁栄を求めて下さい。終わりにFAX通信発行に協力して下さった前田専務、西田局長、阿曾、羽山、高橋さん、編集校正を担当して下さいの中野さんには大変お世話になりました。

皆様長い間ありがとうございました。

平成28年9月25日

会頭 秋元 秀夫



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年10月13日(木)

Vol.337

私が思うこれからの経済

秋元 秀夫

この稿を書くことを迷って発信が遅れてしまいましたが、心残りにならぬようにと意を決して書く事に致しました。

世界の経済、日本の経済—アベノミクス—が勢いを取り戻せないで低迷しております。世界経済の成長率の予測はあの中国をはじめとしてここ1～2年は何度も下方修正され貿易の不振が続き、それは一過性のものでなく、当分は中長期的なスパーンで成長率は低下して行くのではないかとと思われるような情勢が続いております。私の様な地方の小商人が言えることではありませんが、最近のTPPはアメリカの政治家などの発言などから思えば、グローバル経済はこれからどういう方向へ向かうのだろうかとの疑問が生まれます。保護主義？現地生産販売？が進み日本を含む先進国企業は膨大な内部保留を抱えながら国内への設備投資には前向きな姿勢は全く見られない事もその大きな原因の一つでもあります。この将来への不安感から来る慎重論は西欧などで見られる自由貿易や大量の移民の流入を嫌う反グローバリズムが拡大しつつあり、アメリカへも飛び火して行くのではないかと私は懸念致して居ります。不安材料はたくさんありますが、国内的には高齢者の年金支給、医療費負担が受給者、負担企業にとっては今後大

きな課題であります。この課題を明確に解決しなければ、GDPの60%を占める国内消費の低迷は今後も続き、インフレ2%もあり得ないデフレへと逆行するのでは無いかと心配され、そのことを証明するように一部新聞紙上ではアベノミクスの成功によって倒産件数は戦後以来の歴史水準まで減少したと伝えられておりますが、実際には倒産件数は昨年は8,812件と減っておりますが、休・廃業、解散企業は昨年2万6,699件と今までの3倍の件数となっております。私共会議所の退会企業と同じ傾向であります。私の持論であります、グローバル化に生きる大企業、人々が寡占化に成果を上げている地域周辺の商業地は廃業、高齢者等の失業が増しております。私共はこの格差、不平等の解消について提案し続けて参りましたが、政治・行政に携わる方達には認識、理解を得られないまま今日に至っております。こうした状態を変えなくては本当の経済の繁栄、豊かさ、将来への安心感は生まれません。企業もまた資本主義のあり方がこの30年余り市場経済主義となり、株主の利益を優先し短期の利益追求が最優先とされ、弱肉強食の経済社会となりました。企業、資本主義本来の目的である職業を通して社会に貢献すると言う義務責任を放置して地域社会の健全な繁栄発展を無視するかの様な資本主義のあり方、企業の姿勢を修正すべき時だと申し上げ、格差・不平等の修正を唱え続けて参りました。私の声は届かなかったかもしれませんが、東方の一小国の日本が今日までなぜ繁栄して来たかを歴史に教わるべきだと述懐しながら次の号で会頭最後のお礼を述べさせていただきます、FAX通信を終わりとさせていただきます。

ありがとうございました。